

一般社団法人 薬学教育評価機構
平成 29 年度 定時社員総会 議事録

日時：平成 29 年 6 月 22 日（木）13：00～15：00

場所：日本薬学会長井記念館 地下 2 階 長井記念ホール

出席者：

社員 （出席）77 社員代表者（74 大学＋3 団体、うち 17 名代理出席） （資料 1）
役員 （理事）市川 厚、乾 賢一、井上 圭三、寺尾 允男（監事）小池 啓三郎、村瀬 清志
来賓 文部科学省 高等教育局 医学教育課 薬学教育専門官 前島 一実氏
厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 医薬情報室長 紀平 哲也氏
事務局 戸部 徹、戸田 潤、小林 静子、母壁 美由紀、久松 絵美子、長谷 章子、橘田 萌、
落合麻衣

配布資料：

- 資料 1 平成 29 年度 定時社員総会 出席者名簿
- 資料 2 平成 28 年度事業報告書（案）・決算報告書・監査報告書
- 資料 3 平成 29 年度事業計画（案）
- 資料 4 平成 29 年度収支予算（案）
- 資料 5 理事および監事候補者名簿・役員改選関連資料
- 資料 6 平成 28 年度の評価結果について（本評価 11 大学）
- 資料 7 総合評価評議会および関連委員会 委員一覧（平成 29 年 4 月現在）
- 資料 8 平成 29 年度評価予定表
- 資料 9 第 1 サイクル（7 年間）の評価対象大学
- 資料 10 薬学教育（6 年制）第三者評価 評価基準（改定案）
（参考）平成 28 年度「薬学教育（6 年制）評価」結果報告書

1. 理事長挨拶

井上理事長から開会の挨拶があった。

2. 来賓挨拶

（文部科学省 高等教育局 医学教育課 薬学教育専門官 前島 一実 氏）

薬学教育評価機構の 6 年制薬学教育プログラム評価について、これまでに半分近くの大学が

受審し、その評価結果が公表されている。さらに第2サイクルに向け、評価基準の見直しを積極的に行っていることに感謝を申し上げます。大学の内部質保証システムをサポートする仕組みとして機関別の認証評価があるが、薬学分野の関係者の皆様が行う分野別の評価についても、評価する側とされる側が非常に近く、コミュニケーションを蜜にして評価していただきたいと思っている。第2サイクルからも良い仕組みを作り上げて欲しい。引き続きご協力をお願いいたします。

(厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 医薬情報室長 紀平 哲也 氏)

薬学部教育が6年制に移行して10年経過した。評価については、他の学部にも先駆けて認証の形を皆様のご協力の下で作っていただいた。今後は評価結果を真摯に受け止めてどう改善していくか、という前向きな取り組みで各大学進めていただきたい。また薬学評価が学生の評価で終わるのではなく、臨床の現場に出た後どういう教育を受けていく形なのか、薬学教育の評価にとどまらず、その後の評価にも繋がっていくということに関係者全員で意識しながら今後ともご協力いただければと思います。

3. 出席状況及び定足数の確認

(資料1)

戸部事務局長より、74大学3団体のうち、72大学3団体(うち17名が代理出席)が開会時に出席しており、本機構定款14条に基づき社員総会の開催が成立したとの報告がなされた。なお、出席状況確認時欠席の2大学に関しては、後に出席が確認され、全77社員代表が揃った。

4. 議事録署名人指名

井上理事長より、岐阜薬科大学の稲垣 隆司 氏、崇城大学の小田切 優樹 氏の2名が議事録署名人として指名され、異議なく承認された。

5. 事務報告

戸部事務局長より、配布資料1～10、および(参考)平成28年度「薬学教育(6年制)評価」結果報告書の確認が行われた。

6. 議 題

【承認事項】

(1) 平成28年度事業報告

(資料2)

戸田事務局次長より、事業報告がされた。主な報告は以下のとおり。報告後、承認された。

[運営関連]

- ・平成 28 年度定時社員総会（6 月 23 日）、理事会（6 月 14 日・2 月 10 日）、運営委員会（5 月 23 日・1 月 27 日）の開催
- ・役員・運営委員の変更
- ・評価基準改定作業の経過報告のための臨時理事会開催
- ・再評価受審大学に加え、平成 29 年度～平成 31 年度の本評価大学数増加に伴う機構事務職員（1 名）、特別研究員（2 名）の増員
- ・薬学教育の現状に関する情報収集のための国際対応委員会委員の海外派遣
- ・機構パンフレットの改訂（4,000 部）
- ・機構関係機関・高等学校へのパンフレットの送付
- ・薬学教育評価ハンドブックの改訂
- ・社会保障・税制度導入に伴う評価実施関係者からのマイナンバーの取得および管理業務の委託

[評価事業関連]

- ・評価事業関連委員会委員の変更
- ・評価関連会議回数報告
- ・平成 28 年度評価対象校と但し書きに対する改善報告書が提出された 3 大学の結果公表
- ・薬学教育評価結果報告書（500 部）作成・関係各位に送付
- ・評価者研修会の開催（期間：平成 29 年 1 月 7 日～8 日、会場：クロス・ウェーブ府中）
- ・評価基準改定関係会議等の開催（評価基準改定ワーキンググループ会議開催、日本薬学会第 137 年会シンポジウムにて発表）

(2) 平成 28 年度決算報告（新星パートナーズ会計事務所 井河 伸朗 氏）（資料 2）

新星パートナーズ会計事務所 井河氏より決算報告がなされた。主な説明は以下のとおり。説明後、承認された。

- ・課税事業者となったため消費税が発生した。
- ・平成 28 年は評価者研修会の予算を事業費から管理費に移行している。
- ・平成 28 年は赤字となっており、正味財産が減っている。

(3) 平成 28 年度監査報告（資料 2）

小池啓三郎監事より監査報告がなされた。監査に当たり理事会に出席すると共に、評価機構

の事業運営等の確認を行った結果、決算書類は会計帳簿の記載と合致し、適切な運営がされているとの説明があった。なお、平成 28 年度決算において、正味財産が 500 万円減少し、8,000 万円となった。現時点で財政上の懸念材料はないが、第 2 サイクルを迎え 7 年間で 1 サイクルとする際の適切な資産の運用の収支バランスについて、中期計画を定める等、具体的な取り組みは必要かと思われるとの指摘が補足された。

(4) 平成 29 年度事業計画 (案) および収支予算 (案) について (資料 3、4)

戸田事務局次長より、資料 3、4 を基に事業計画と収支予算編成について説明があった。説明後、承認された。主な説明は以下のとおり。

<資料 3 運営関連>

- ・定時社員総会、理事会 (2～3 回)、運営委員会およびその下部委員会 (2～3 回) の開催
- ・運営委員会の下部委員会の業務内容説明 (国際対応委員会の評価基準の英語版の作成等)
- ・第 2 サイクル目の改定評価基準案の説明会、意見調査、改定新基準の全国説明会の実施

<資料 3 評価事業関連>

- ・今年度、14 大学 (本評価対象校 13 校・再評価対象校 1 校) の審査実施
- ・3 大学の提言に対する改善報告書の審査実施
- ・評価者研修会の実施 (期間：平成 30 年 1 月 6 日～7 日、会場：クロス・ウェーブ府中)
- ・平成 31 年度受審大学への説明会・評価実施員説明会の開催
- ・ハンドブックの改訂

<資料 4 収支予算案>

- ・管理費と事業費にまたがる項目は会費と手数料の収入の比で按分している。

収入：会費収入は 61,700,000 円。評価手数料は 13 大学と再評価 1 校で 104,576,000 円

支出：(事業費)

本評価は評価対象大学が増えるため昨年度に比べ 480 万円の増加

事務費の租税公課 120 万円は消費税の支払い分として計上

(管理費)

評価者研修会の科目を管理費から事業費に移行

基準・要綱検討委員会の開催数が前年度より減少するため、委員会関連費を削減補足として、以下の発言があった。

本来なら前年度内に承認を得るべきところ、平成 29 年度の事業計画案と収支予算案は平成 29 年 5 月の理事会で承認を得ている。その結果、承認を得ないまま予算執行をしている形と

なっている。次年度からは改善するのでご了承ください。

また井上理事長より、国際対応委員会の評価基準の英語版は2サイクル目から行う点、2サイクル目の評価基準案をまとめる作業は現在、基準・要綱検討委員会でまとめている点等が補足された。

(5) 理事の改選について

(資料5)

機構役員規則第2条、5条により理事・監事の改選が行われ、井上理事長から、今回は候補者数が13名で規則人数内であるため信任投票となる。監事を含め投票を行わず、一括承認で行いたいとの発言があり、了承された。その後、候補者について異議はなく、理事・監事が下記のとおり承認された。

理事：市川 厚（武庫川女子大学薬学部）、乾 賢一（元京都薬科大学）、井上 圭三（帝京大学）、大高 章（徳島大学薬学部）、奥 直人（公益社団法人日本薬学会）、木平 健治（一般社団法人日本病院薬剤師会）、桐野 豊（徳島文理大学）、白幡 晶（城西大学）、杉浦 幸雄（元同志社女子大学薬学部）、寺尾 允男（一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団）、西島 正弘（昭和薬科大学）、山本 信夫（公益社団法人日本薬剤師会）、山元 弘（元神戸学院大学薬学部）

監事：小池 啓三郎（一般社団法人日本私立薬科大学協会）、村瀬 清志（元社団法人日本薬学会）

改選後、休憩に入った。その間に平成29年度第2回理事会が別室で開かれ、会議再開後、理事長と副理事長が決定したことの報告があった（下記参照）。

理事長：井上 圭三

副理事長：市川 厚

【報告事項】

(6) 平成28年度6年制薬学教育評価の結果について

(資料6)

資料6について、戸部事務局長より説明があった。平成28年度の評価結果は但し書き4校、評価継続1校となった。

(7) 平成29年度評価関連委員会の編成について

(資料7)

資料7について、戸部事務局長より説明があった。評価委員会について、本年度評価対象大学に在籍している委員（大橋 綾子委員、栗原 順一委員、平田 收正委員）は本年度の評価か

らは外れている。その代わりに3名の委員（杉原 多公通委員、平澤 典保委員、吉富 博則委員）を増員した。また、異議審査委員会予備委員は、人数が少なかったため4名ほど、中立の立場の先生を増員した。

(8) 平成29年度の評価スケジュールについて (資料8)

資料8について、戸部事務局長より評価作業スケジュールについて説明があった。昨年度に比べて大きな変更はなく、現在は書面調査を行っている。

(9) 評価対象大学について (資料9)

資料9について、第1サイクルの全74大学の評価受審年度が決まったと、戸部事務局長より説明があった。井上理事長より、第2サイクルでは各年度このまま第1サイクルと同じ校数で評価を行うと、初年度が3校となり、後半との校数の差が大きくなる。可能ならば各年度の受審大学数は平均化されていることが望ましく、第2サイクルの初年度に受審しても良い大学があれば、お申し出いただきたいとの要請があった。

(10) 評価基準改定について (資料10)

戸部事務局長より、資料10を各大学内でご覧いただき、ご意見を頂戴したい。ご意見は6月23日（金）から7月31日（月）の間、WEBアンケート調査として募集するとの説明があった。

(11) その他

中村明弘基準・要綱検討委員長より、先の理事長からの受審前倒しの要請に関連する話として、午前中の評価基準改定（案）の説明会で大学基準協会の方との会話の中から、一つ情報を共有しておきたいとの発言があった。内容は以下のとおり。

「各大学、機関別認証評価とは別に本機構の評価も受けている。これから始まる第2サイクルの認証評価でも7年サイクルで内部質保証があり、大学基準協会の方では本機構とリンクして第三者評価を行う意向がある。機関別認証評価と分野別評価を同年度に受診するというのも一つの考え方だが、本機構の評価を先に受け、指摘された点を改善し、学長へ報告する。その次の年に機関別認証評価を受審した際に、薬学部では改善報告がされていると点検・評価すると、大学全体としてPDCAサイクルをきちんと回しているというアピールがし易い。このように、分野別評価を先に受けることも一つの方法である。」との情報提供があった。

また京都大学より、大学の予算として会費・評価手数料の捻出が難しくなっている。特に国公立大学は運営費交付金の減額により、厳しい状況である。評価に関してできるだけ節約を行って欲しいとの要望が述べられた。これに対し井上理事長から、国公立大学の経常費に関する現状は十分に承知している。機構の財政についても厳しい状況が予想されているが、要望を勘案しながら運営をしていきたいとの回答があった。

以上

以上、議事の経過および結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第 19 条第 2 項により、議長及び議事録署名人は記名押印する。

平成 29 年 7 月 21 日

議長	一般社団法人薬学教育評価機構 理事長 <u>井 上 圭 三</u> (押印済)
議事録署名人	岐阜薬科大学 学 長 <u>稲 垣 隆 司</u> (押印済)
議事録署名人	崇城大学薬学部 学部長 <u>小 田 切 優 樹</u> (押印済)
議事録作成人	一般社団法人薬学教育評価機構 事務局長 <u>戸 部 徹</u> (押印済)